

# 8月 新着図書

野庭すすかけコミュニティハウス

S U M M E R

おひとり3冊まで、2週間（新着本は1週間）借りられます。

## 黙示

著者名：今野敏

渋谷区の高級住宅街で窃盗事件が発生！ 警視庁捜査三課の萩尾警部補は、相棒の秋穂と現場に向かった。被害者は1丁長者の館脇で、盗まれたのは伝説の「ソロモンの指輪」、4億かけて入手したものだという。事件には「暗殺教団」らが関わっており、館脇は命を狙われているというが……。大好評、萩尾警部補シリーズ第3弾！

## ヒポクラテスの試練

著者名：中山七里

大好評・法医学ミステリー「ヒポクラテス」シリーズ 待望の第3弾！急激に悪化する謎の“肝臓がん”——相次ぐ不審死は未曾有のパンデミックの始まりなのか！？自覚症状なし、MRIでも検出不能……これは未知のウイルスなのか！？偏屈だが解剖の腕は超一流の光崎藤次郎教授が率いる浦和医大法医学教室に、城都大附属病院の内科医・南条がやって来た。前日に搬送され急死した前都議会議員・権藤の死に疑問があるという。肝臓がんが死因とみられたが、九カ月前に受けた健康診断では問題がなかった。捜査に駆り出された埼玉県警の古手川は、権藤の甥が事故米を使って毒殺を目論んだ証拠を？む。しかし、光崎が司法解剖から導き出した答えは恐るべき感染症だった！直後、権藤の周囲で新たな不審死が判明。感染源特定に挑む新米助教・梅野真琴が辿り着いた驚愕の真実とは——！？

## じんかん

### 直木賞候補作

著者名：今村翔吾

民を想い、民を信じ、正義を貫こうとした青年武将は、なぜ稀代の悪人となったか？時は天正五年（一五七七年）。ある晩、天下統一に邁進する織田信長のもとへ急報が。信長に忠誠を尽くしていたはずの松永久秀が、二度目の謀叛を企てたという。前代未聞の事態を前に、主君の勘気に怯える伝聞役の小姓・狩野又九郎。だが、意外にも信長は、笑みを浮かべた。やがて信長は、かつて久秀と語り明かした時に直接聞いたという壮絶な半生を語り出す。大河ドラマのような重厚さと、胸アツな絆に合戦シーン。ここがエンターテインメントの最前線！

## 君は君の道をゆけ

著者名：齋藤孝

行動者だけが学ぶことができるのだ。哲学者ニーチェに学ぶ“自分”の足で立ち、強く生きていく方法。

## きたきた捕物帖

著者名：宮部みゆき

まだ下っ端の見習い岡っ引きの北一（16歳）は、亡くなった千吉親分の本業だった文庫売り（本や小間物を入れる箱を売る商売）で生計を立てている。やがて自前の文庫をつくり、売ることができる日を夢見て……。北一が、相棒・喜多次と出逢い、親分のおかみさんの協力を得て自立し、事件や不思議な出来事を解き明かしていく、優しさあふれる捕物帖。

## 家族じまい

著者名：桜木紫乃

「ママがね、ボケちゃったみたいなんだよ」。突然かかってきた、妹からの電話。両親の老いに直面して戸惑う姉妹と、それぞれの家族。認知症の母と、かつて横暴だった父……。別れの手前にある、かすかな光を描く長編小説。

## 夜の向こうの蛹たち

著者名：近藤史恵

二人の小説家と一人の秘書、三人の女が織りなす、ひりつく心理サスペンス。才能、容姿、愛情……持たざる何かを追い求め、わたしは「わたし」を見失う——この嘘は誰かを不幸にしていますか？小説家の織部妙は順調にキャリアを積む一方、どこか退屈さも感じていた。そんなある日、“美人作家”として話題の新人、橋本さなぎの処女作に衝撃を受ける。しかし、文学賞のパーティで対面した橋本の完璧すぎる受け答えに、なぜか幻滅してしまう。織部の興味を惹いたのは、橋本の秘書である初芝祐という女性だった。初芝への気持ちを持って余す織部は、やがて「橋本さなぎ」の存在に違和感を抱くようになる。その小さな疑惑は開けてはならない、女同士の満たされぬ欲望の渦への入り口だった……。 「第13回エキナカ書店大賞」受賞作家の最新作。

## ホーム

著者名：堂場瞬

二十年前、大リーグのニューヨーク・フリーバーズでプレーをしていた藤原雄大。五十二歳となった今は、マイナーリーグの巡回コーチをしている。ある日藤原は、現役時代のライバルで、大リーグ機構上級副社長であるヘルナンデスの訪問を受けた。東京オリンピックのアメリカ代表監督が亡くなったため、代わりに監督をやってくれないかと打診されたのだ。悩んだ末にその依頼を引き受けた藤原は、戦力補強のため、アメリカと日本の二重国籍を持つ大学生天才スラッガー、芦田をスカウトする。しかし、そこには二つの故郷の狭間で苦しむ若者の姿があった。デビュー作『8年』実に19年ぶりの続編！

## 雲を紡ぐ

### 直木賞候補作

著者名：伊吹有喜／著

壊れかけた家族は、もう一度、ひとつになれるのか？羊毛を手仕事で染め、紡ぎ、織りあげられた「時を越える布」ホームスパンをめぐる親子三代の心の糸の物語。

## 銀花の蔵

### 直木賞候補作

著者名：遠田潤子／著

絵描きの父と料理上手の母と暮らす銀花は、一家で父親の実家へ移り住むことに。そこは、座敷童が出るという言い伝えの残る、歴史ある醤油蔵だった。家族を襲う数々の苦難と一族の秘められた過去に対峙しながら、昭和から平成へ、少女は自分の道を歩き出す。実力派として注目の著者が描く、圧巻の家族小説。